

地場産業活性化のために



妻田博稔議員

「ラブラブみやのじょう」の推進策は

妻田博稔議員 町内経済の活性化を図るために、地元商店、産品の愛着、愛用運動を徹底するべきではないか。

成果が上がるように努力する

北村町長 商工会や役場職員に再認識を促し、関係機関団体と連携を取りながら、成果が上がるように努力する。

竹の利用策は

妻田議員 「竹のふるさと宮之城」のイメージづくりは出来た。今後は儲かる農業、儲かる商業、儲かる工業のために竹を利用していくべきではないか。

重要な課題である

町長 本町にとって豊富な竹林資源を活かす事は重要な課題であると認識している。

タケノコ生産の

振興策は

妻田議員 年間を通じてタケノコの生産が出来るように収穫時期の異なる竹林の整備をして農業、商業、観光業に活かすべきではないか。

生産組合と協力して

町長 現在、試験栽培をしているので一年中生産、出荷が出来るようにタケノコ生産組合と協力して体制をとる。

竹炭、竹酢液の

利用策は

妻田議員 竹炭や竹酢液が安全で健康的な資材として、農業や環境整備などに広く利用されているが「竹のふるさと宮之城」のかけがえのない資

材として研究開発、利用を図るべきではないか。

活用策を図る

町長 優れた特性を持っているのでJ.A.、普及センター、農業高校と一体となって幅広く積極的に活用策を図る。

地元業者に

妻田議員 企業誘致も大事だが、町内の企業の技術力や生産できるものを調査して仕事を持つてくる必要がある。また、時吉に造る団地の分譲は地元業者に造らせる人に優先的に売るべきではないか。

検討する

町長 土地の販売に条件をつけるのは難しいが、出来るだけ地元業者を利用してもらえるように、業者と一緒になって検討する。

柔軟な対応を

妻田議員 出前講座は行政と町民が共に考え、協働でまちづくりを進めるために良い政策であるが、成果を上げる為に柔軟な対応を取るべきではないか。

町長 町民に広報して町づくりを共に考えるためにメニューになくとも柔軟に対応する。

イベントで活性化を

妻田議員 ちくりん村開村二十年、宮之城温泉流失三十年、北西部地震から五年、節目の年にイベントで町の活性化を図るべきではないか。

町長 予算措置して対応する。



タケノコの周年出荷を目指して試験栽培中の「緑竹」